

#####

**最近注目の、ブロック型多元共重合体（SEBS）に
分子化合物系帯電防止剤；「ビオミセルBN-105」で
帯電防止性能付与が可能となることが解明された。**

#####

2019-10-1

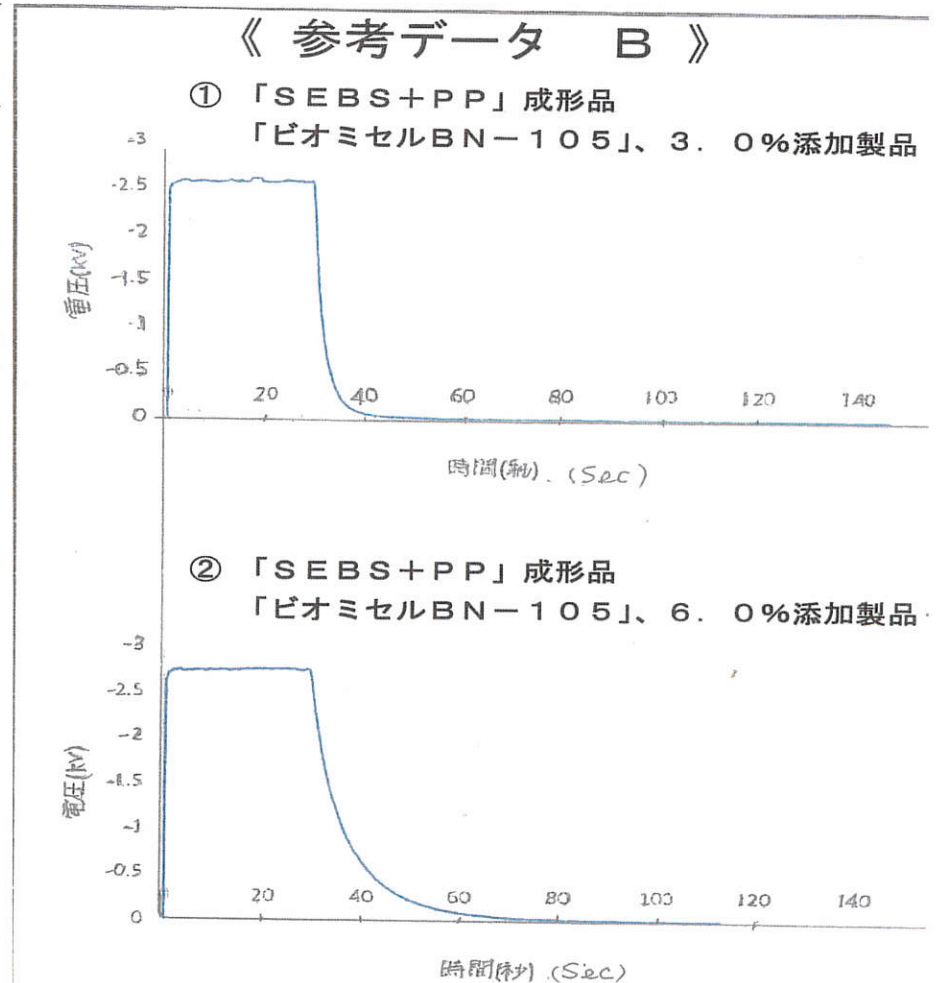
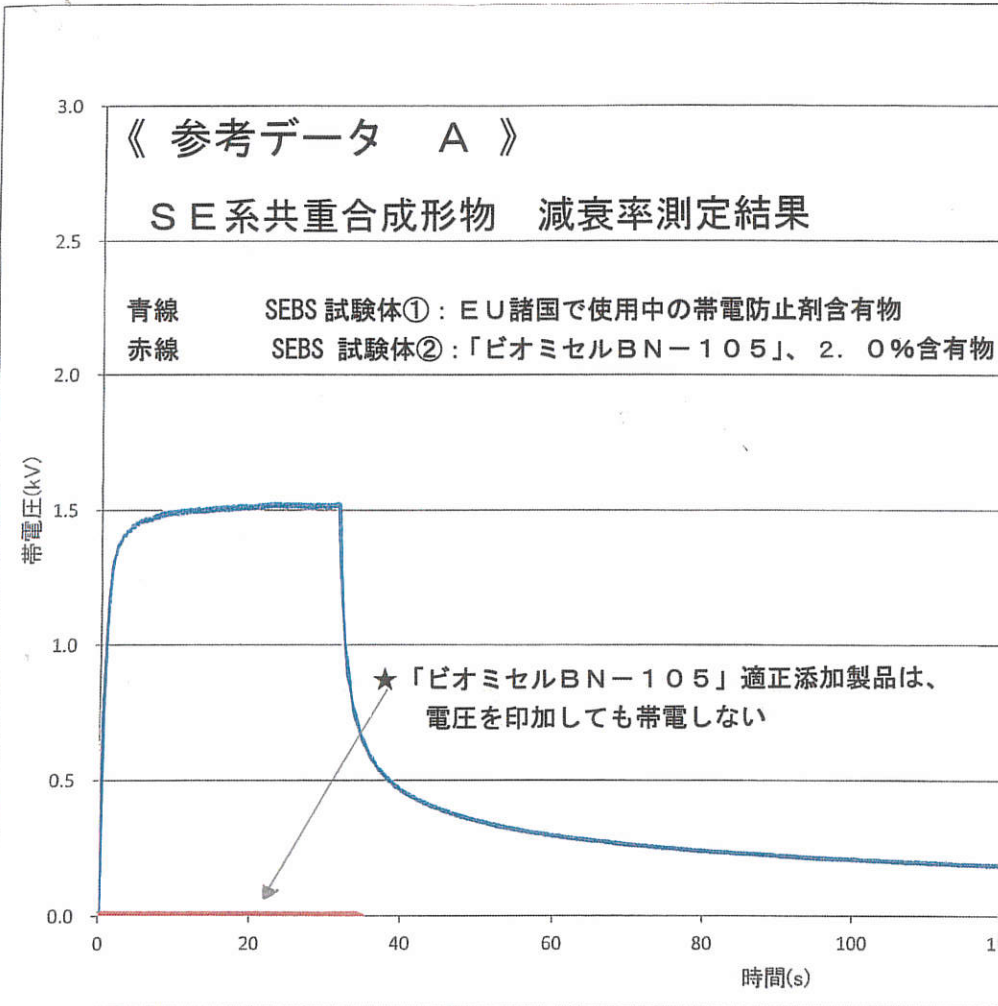
★、練り込み型帯電防止剤メーカー、株式会社ボロン研究所は、

堅さを持つ反面、脆弱性を持つ、オレフィン系ホモポリマーの物性弱点を好転させる可能性を持つ、最近期待の「ブロック型多元性共重合体（SEBS）」とのポリマーアロイ化することで、その成型物を用途拡大と共に、完全無帯電化させることの可能性を解明した。

既に、「ビオミセルBN-105」単独でも、ポリプロピレン（PP）には無帯電化性能付与が可能となることが注目されているが、特性であるメチレン基（ $-CH_2-$ ）を保有する樹脂への親和性を持つこの製品添加により、不定期に発生する帯電荷を完全に漏洩して無帯電化製品にできる事が証明されているが、この技術の応用でもある。

特に自動車工業界では多量に使用する、ポリプロピレン（PP）材料への物性改質に、ポリマーアロイ化することで、注目のSEBS等のブロック型コポリマー類の無帯電化は非常に重要と思われるために、分子化合物系帯電防止剤「ビオミセルBN-105」の利用が大いに期待される。

★ SEBS への「バイオミセル BN-105」添加製品は、0ボルトへ完全減衰が見られる ★



Email: info@boron-labo.co.jp